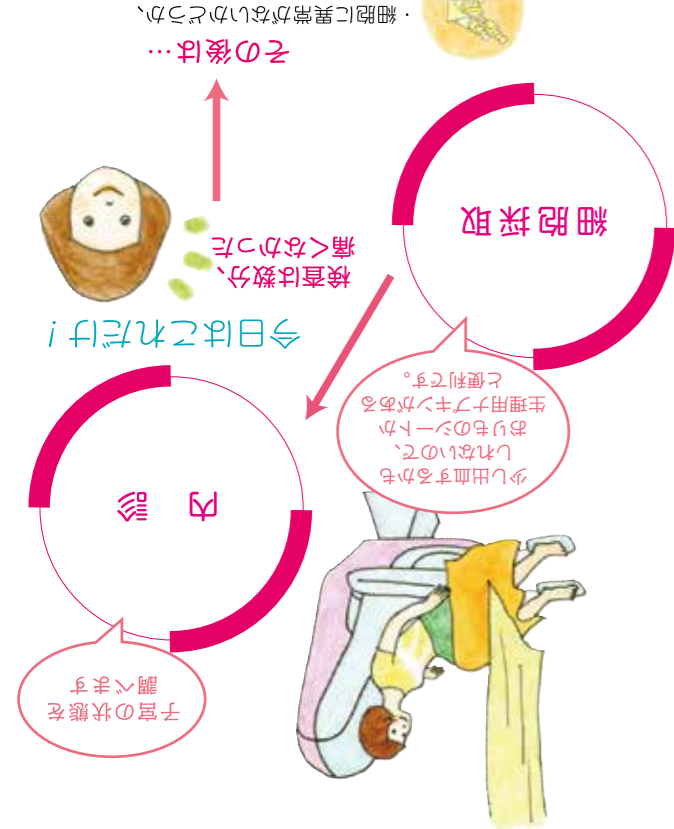
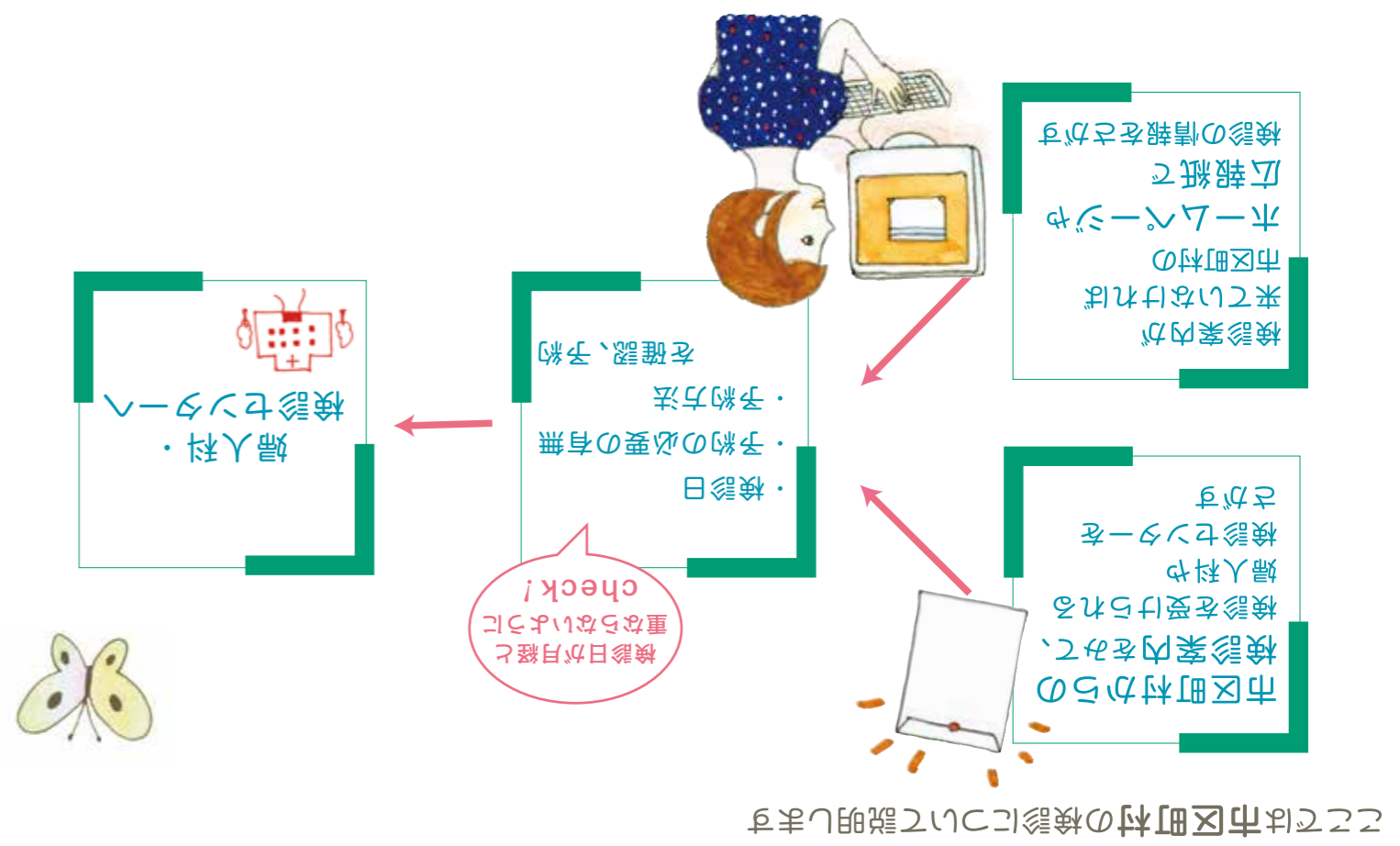


異常が見つからなくても、2年に一度検診を受けましょう。

・後日結果を必ず確認しよう。
 ・精密検査が必要と言われたら、必ず受けよう。
 ・細胞に異常がないかどうか、
 細胞診の専門医や細胞診断士が調べます。



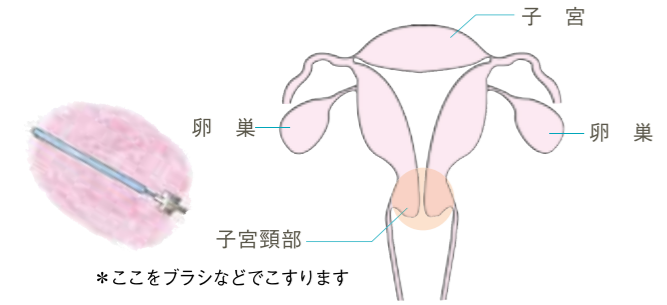
婦人科・検診センターでは



市区町村の検診、職場の検診、自費の3つの方法があります。それぞれ費用や申し込み方法は異なり、市区町村の検診の場合、500～2000円で受けられます。

子宮頸がん検診を受けるには

ここでは市区町村の検診について説明します



21歳の大学生です。3カ月前、市役所から子宮頸がんの検診案内が届いて、たまたま受けてみたら、がんの一手前の状態が見つかって…。まだ若いのに、がんが死ぬかもしれないですごくこわかった。「今、治療すれば、子宮を残して妊娠もできる」と聞いて、手術を受けたの。今は生理も順調だし、気になる症状もないよ。「もしもあの日検診を受けていなかったら」と考えるとぞっとする。検診を受けて、ほんとによかった。学校の友達に勧めたら、みんなも行くって言ってたよ。

25歳の社会人です。会社の同僚が子宮頸がんになり、怖くなって、親友と一緒に地元で子宮頸がん検診を受けました。ふたりとも異常はなく、ホッとしました。2年に1回でいいということなので、「次も一緒に受けに行こうね」と話しています。将来仕事も続けて子どもも欲しいし、検診は続けるつもりです。

Q どんなウイルスで子宮頸がんになるの?
 A HPVという、ありふれたウイルスです

HPV (ヒトパピローマウイルス) には多くの女性が感染しますが、ウイルスやできた前がん病変 (がんの一手前) が自然に消えることもあり、ごく一部の女性が子宮頸がんになります。

Q 子宮頸がんになったら、どんな治療をするの?
 A 早期発見すれば子宮頸部の一部を切除するだけで済みます

前がん病変 (がんの一手前) や初期のがんで見つかったら、子宮の入り口 (子宮頸部) の一部を切除するだけで、子宮のほとんどを残すことができ、妊娠・出産も可能です。進行すると子宮やその周辺の臓器を取ることになります。化学療法 (抗がん剤) や放射線療法も行われることがあります。

Q 子宮頸がんの予防法はありますか?
 A 予防接種 (ワクチン) があります

子宮頸がんの予防方法としては HPV の予防接種 (ワクチン) があり、最近日本でも認可されました。接種するのは、性交渉の経験がない12歳前後になる予定です。20歳以上で接種した場合の予防効果は不明で、また、ワクチンを接種したとしても予防効果がいつまで続くのかははっきりしていないため、やはり検診は必要です。なお、ワクチンは子宮頸がんの治療には使われません。

科学的根拠に基づくがん検診推進のページ <http://canscreen.ncc.go.jp/> からダウンロードできます。
 子宮頸がんに関する情報 国立がん研究センター がん情報サービス <http://ganjoho.jp/>
 厚生労働省 市区町村がん検診に関するホームページリンク集 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/link.html>

20歳からはじめる 子宮頸がん検診



20歳から 子宮頸がん検診が必要です

- 性交渉でのウイルス感染が原因で、誰でもなる可能性のあるがんです
 ウイルスの感染自体は珍しいことではなく、多くの女性が感染します。
- 初期には症状がないため、自分ではがんであることに気づきません
 *不正出血 (月経期間外の出血や性交時の出血) など気になる症状があれば、ほかの病気の可能性もあるので、婦人科で診察を受けましょう。
- 「まだ若いから」といって、安心できません
 子宮頸がんになる女性は、以前は40代以上が大半でしたが、今では40代以上は減少し、むしろ20～30代で増えています。
- 検診で細胞を採るだけで早期発見できます
 子宮頸部の細胞をブラシなどで少し採る (右上図)、単で痛みの少ない検査です。前がん病変 (がんの一手前) で見つけることが可能です。